

『小児歯科からのアピール：生後6カ月に乳歯が生えてきたら 小児歯科に通い始めましょう』

九州大学大学院歯学研究院

口腔保健推進学講座小児口腔医学分野(小児歯科) 野 中 和 明

小児歯科医師としての私の23年の歳月の中で確実に予測できていたことは、歯科医師数の増加を踏まえ需要(患者数)と供給(歯科医師数)のアンバランスによる歯科医療界を取り巻く諸条件の悪化でした。適切なバランス確保のために、供給減をはかる抜本的大改革が断行されなかったことは残念です。

日本経済の不況と急激過ぎる少子化時代の到来による児童数の激減は、予測の範疇を多少超えるものでした。少子化が抱える本質的問題は、将来の日本社会の繁栄を築く世代の絶対数が少なく社会衰退につながることです。ここは大人の欲を抑え、未来を背負った数少ない子ども達への行政上の手厚い育成加護が必要です。

小児歯科外来における患児数減少の心配にどう対応していくのか。我々小児歯科医師は、妊婦や母親予備軍の若い世代にも小児歯科の存在を強く印象づける努力を続けましょう。そして『子供の頭髪が伸びたら散髪屋へ行くように、生後6カ月に乳歯が生えてきたら小児歯科医院に通い始めましょう』とアピールしながら、虫歯から子どもを守ってくれるいつも優しい小児歯科の歯医者さんでいたいものです。

一学会員としては、九州近辺の各都市で一般歯科と同時に小児歯科も標榜しておられる開業医の先生に、小児歯科学会員として一緒に研鑽を積まれることを希望します。社会に対して正直な歯科医師としての姿勢を守り、看板と中身が同じであることを維持する努力は専門職の生き方としてごく基本的なことです。開業医の先生が中核となり運営されている小児歯科学会九州地方会は、歯科医師会のネットワークを活用して開業医の先生を学会員に積極的に取り込む好機ではないでしょうか。ご批評をお願い申し上げます。

温故知新

北九州市開業 橋 本 敏 昭

私が大学の助手として残った昭和54年頃、学会は春と秋2回の全国大会であった。その後私が昭和57年に北九州市において小児歯科医院を開業した後、地方会が全国6つのブロックに分けて組織された。昭和63年に私は地方会幹事となり、それ以来今日まで15年間に渡り地方会の役員としてお手伝いをさせて頂きました。平成4年には副会長に任命され、平成12年に監事に、そして現在副会長に再任され、責任の重さを痛感しております。初期の地方会は九州5大学がリーダーシップを取り、活発に講演や発表がなされておりました。また、地域活性化の為にと、九州各地で開催され、私は北九州市での第17回の大会長をおおせつかり四苦八苦した思い出があります。それでも地域に

おける小児歯科医療の普及啓発に大いに役立ったのではないかと思っております。特に初代吉田穰学会長は学会を組織し、厳しい財政の中で運営をしなければならないという事で、大変にご苦労されたことと思います。そして我々、地方会会員を暖かく見守って頂き感謝の念にたえません。また木村学会長の時は強烈なリーダーシップをもって会員を引っ張ってこられ改革を断行され、地方会の発展に大きく寄与されたと思います。そして本川学会長の時には開業医を主体とした学会への転換が盛んに検討され、現在、開業医としては初の瀬尾学会長となり、開業医が中心となる学会運営形態が整備されることとなり、地方会も新しい時代への一歩を踏み出したのであります。時代は虫歯の洪水を抜け出し、少子高齢化、健康増進の時代へとなり、地方会もさらに変化してゆくものと思います。20周年を期に温故知新という言葉の意味を考えてみたいと思います。

20周年の節目によせて

宮崎市開業 旭 爪 伸 二

日本小児歯科学会九州地方会が20周年の節目を迎えたことを心からお祝申し上げます。

実は私どもの医院も今年で開院15年目を迎えますので、大学での研修期間を合わせますと地方会と共に小児歯科学を研鑽して来たような気がいたします。

この間、地方会を通して多くの大学や臨床医の先生方と知り合い、多くの勉強をさせていただきました。それだけでなく、一人の人間として対患者を考える上で役に立つ、さまざまな示唆もいたいたいたと思います。当初、恒例だった野球大会やその後のジュース、駄菓子でのささやかな打ち上げも忘れられない思い出です。私にとって地方会は研修の場であったと同時に、自分の仕事への意欲をかき立ててくれるあたたかい存在でもありました。

九州各県には小児の口腔衛生の遅れた地域がまだまだ多いのですが、私達の住む宮崎県も例外ではありません。その宮崎県で地方会を開催することができたことも深く思い出に残っています。今では学会の中で地域住民を対象とした講演会開催も珍しくはありませんが、当時はまだ少なく、地方会でも初めての試みとして小児科の巷野悟郎先生をお招きしてオープンの講演会を行いました。お子さま連れの母親も多く来られて、泣き声の飛び交う小児歯科学会を見た時、新しい学会の姿を垣間見たような思いがしたものでした。宮崎県はまだまだ発展途上ですので、これからも頑張らねばなりません。

時代の変遷とともに小児を取り巻く環境も大きく変わってきました。小児歯科医として子供のむし歯が減ったことは喜ばしいことですが、成人病の若年化や少子化とともに沸き上がった新たな問題など、心や身体の問題は口腔の問題として真っ先に現れやすいのも事実です。子育て支援としての小児歯科医の役割はこれからも重要であろうと思います。

地域に根付いた学会として、これからも九州地方会が発展されますことを心からお祈り申し上げます。